

平成26年度 道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業

研究協力校 実践事例集

～道徳読み物資料集「心のとびら」「希望へのかけはし」を活用して～



和歌山県教育委員会

はじめに

いじめや不登校、児童虐待などの問題が深刻化し、子どもたちを取り巻く環境が厳しくなる中、本県では道德教育の一層の充実を図り、子どもたちの豊かな情操と道德心をはぐくむため、昨年1月に県独自の道德読み物資料集「心のとびら」（小学生用）、「希望へのかけはし」（中学生用）を作成し、県内すべての小中学校で積極的な活用をいただいているところです。

この実践事例集の第Ⅰ章には、本年度、県内の小中学校5校の道德教育研究協力校において取り組んだ授業実践の中から、より優れた事例を厳選し、各学校2事例ずつ収録しました。各学校がそれぞれ、子どもたちの道德性をはぐくむため、導入や板書、授業形態や発問等について、どのように工夫して授業を行ったのか、その授業において、子どもたちがどのように反応し、考えが変容したのか、さらに改善するためにどのような手立てを講じるのかなどについて、掲載しています。各学校においては、この実践事例を参考にし、子どもたちの心に響く道德教育を進めていってほしいと思います。

道德教育を進めるためには、校内研修や授業研究の充実を図ることがより重要になってきます。第Ⅱ章には、道德の研修を実施するにあたって大切にすべきことや「特別の教科 道德」（仮称）を見据えた授業実践を行うために必要なこと、道德教育の改善・充実を一層図るための視点等を掲載しています。本実践事例集を活用することで、各学校における道德教育の改善・充実を進め、さらに子どもたちの豊かな情操と道德心をはぐくんでほしいと思います。

結びに、本実践事例集の作成にあたり、御協力いただきました本年度の研究協力校5校及び当該市町教育委員会の皆様、監修いただきました兵庫教育大学大学院 淀澤勝治 准教授に感謝申し上げますとともに、本県における道德教育がより一層充実することを願っています。

平成27年3月

和歌山県教育庁学校教育局
学校指導課長 池田 尚弘

もくじ

第Ⅰ章 道徳読み物資料集「心のとびら」「希望へのかけはし」実践事例

- ◆ 夢に向かって
伝えたい願い－画家・彫刻家 保田龍門－〈岩出市立根来小学校〉…………… 1
- ◆ 伝統を守る
伝える匠の技－紀州漆器－〈岩出市立根来小学校〉…………… 3
- ◆ 日本と外国のつながりを考える
クヌッセン機関長 〈古座川町立高池小学校〉…………… 5
- ◆ 生き方について考える
石に魂をこめる－石屋忠兵衛－ 〈古座川町立高池小学校〉…………… 7
- ◆ あたたかい人間愛（人間愛・思いやり）
つなぐ思い－エルトゥール号－ 〈海南市立第三中学校〉…………… 9
- ◆ いじめを許さない心
今しかない 〈海南市立第三中学校〉…………… 11
- ◆ 公德心、よりよい社会の実現
後世の人々に託す－浜口梧陵－ 〈御坊市立御坊中学校〉…………… 13
- ◆ 高い志をもつ
よりよいものを求めて－上山英一郎－ 〈御坊市立御坊中学校〉…………… 15
- ◆ 過ちを受け入れる心（情報モラル）
はじめての練習試合 〈白浜町立富田中学校〉…………… 17
- ◆ 人のために尽くす
「マザー・テレサ」から学んだこと 〈白浜町立富田中学校〉…………… 19

第Ⅱ章 道徳教育の改善・充実に向けた研修のすすめ

- ◆ 道徳教育の改善・充実に向けた研修のすすめ…………… 21

第 I 章

道徳読み物資料集

「心のとびら」「希望へのかけはし」
実践事例

実施学年
小学校
4年生

主題名 夢に向かって 内容項目：1-(2)

資料名 伝えたい願いー画家・彫刻家 保田龍門ー

1 ねらい

龍門の生き方とおして、夢に向かって希望をもち、粘り強く努力をしようとする道徳的実践意欲と態度をはぐくむ。

2 資料について

本資料は、夢に向かって粘り強く努力する龍門の生き方を主人公の正男が知り、心を動かされるという内容である。4年生の社会科で「地域の発展につくした人々」を学習することもあり、児童が興味・関心をもてる読み物だと考えられる。

資料は、以下の場面から構成される。

1の場面 夏休みのある日、正男は朝から横になってテレビを見ていて、母に叱られる。

2の場面 正男は父に誘われ美術館に行き、『母と子』を見ながら龍門の話を見ながら聞く。そして、父の「夢をあきらめられるかい。」という言葉に正男の心が揺れ動く。

3の場面 正男は父から『母と子』にまつわる話を聞かされ、龍門ががんばれた理由が何となくわかった気がして、「お父さん、早く家に帰ろう。」と言う。

1の場面では、ごく普通の小学生正男の何気ない日常の様子を共感的に読み取らせる。

2の場面では、龍門が生きた時代背景のあらましをとらえさせつつ、困難に負けず夢をかなえようとした龍門の思いを感じ取らせる。そして、父から投げかけられた言葉によって揺れ動く正男の気持ちを読み取らせる。

3の場面では、正男の気持ちの変容を通じて、粘り強く努力することの大切さを考えさせたい。

中学年は、ある人物に憧れたり夢に胸を膨らませたりする時期である。その反面、夢と現実とのギャップに気付き、自分に自信がもてなくなりがちなる時期でもある。だからこそ終末では、自分の夢や目標について、この学習で学んだことと合わせて考えさせることをとおして、より高い目標を立て、希望と勇気をもって夢の実現に向かって努力しようとする態度をはぐくみたい。

3 展開

※「○」は中心発問 「・」は児童の発言、反応等

	学 習 活 動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 将来の夢について発表をする。	○ みんなの夢は何ですか。 ・ 野球の選手 ・ 保育士	・ テンポよく短めに進める。
展 開	2 和歌山県にある龍門の作品の写真を見て、関心をもつ。 3 資料を読んで話し合う。	○ 正男は、なぜお母さんに叱られたとき、反発したのでしょうか。 ・ ごろごろしていると指摘されたから。 ・ 自分としては、いいことをしたと思っているから。 ○ 龍門は、どんなことを思いながら画家になりたいと両親に話したのでしょうか。 ・ やっぱり絵が好きだから。 ・ あきらめられない。 ・ 申し訳ない。 ・ わがままかもしれないけど…	・ 龍門が生きた時代を簡単に説明する。 ・ 挿絵を見て正男の様子をとらえさせる。 ・ 龍門を取り巻く環境について気付かせる。

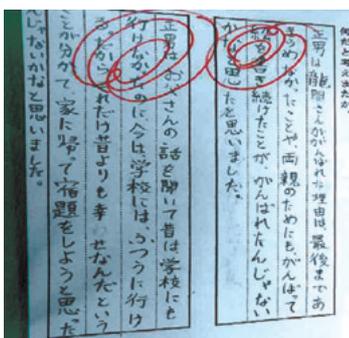
	学 習 活 動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
展 開		<ul style="list-style-type: none"> ○ 正男は父の話聞いて、何を考え込んでしまったのでしょうか。 ・ 夢を実現させたい。 ・ お金が無いから悪いな。 ・ 心配をかけてしまう。 ○ 正男は、龍門ががんばれた理由を何だと考えましたか。 ・ 家族が応援してくれる。 ・ あきらめられない。 ・ 画家になりたい。 ◎ 正男はなぜ、「お父さん、早く家に帰ろう。」と言ったのでしょうか。 ・ 自分も頑張らないといけない。 ・ 早くサッカーの練習をしたい。 ・ 夢に向かってがんばりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 父の話から龍門の人柄にふれる。 ・ ワークシートに書くことによって児童に考えを整理させる。 ・ 龍門の生き方をとおして、粘り強く努力することの大切さや、家族も自分を応援してくれていることに気付かせる。
終末	4 今日の授業で考えたことを書き、交流する。	○ 授業をとおして、どんなことを学んだり考えたりしましたか。	・ 考える時間を十分とる。

4 授業の記録

◎中心発問 正男はなぜ、「お父さん、早く家に帰ろう。」と言ったのでしょうか。

- 児童の反応
- ①自分もがんばれば龍門さんみたいにどんな思いもかなうと思ったから、宿題やサッカーの練習を早くしたくなって、お父さんに帰ろうと言ったと思う。
 - ②正男は、サッカー選手になりたいと思っているけれど、いつも家でごろごろしていたから、龍門さんみたいに今の夢に向かってがんばりたいと思ったから。
 - ③龍門さんは困難に負けずがんばって勉強したのだから、ほくもお父さんやお母さんの役に立つことをしようという気持ち。
 - ④自分から勉強したり、家の手伝いをしたりしないといけないと思ったから。

5 板書等



6 実践を終えて

児童は、龍門を身近な存在と感じ、彼が生きた時代や彼の偉業について興味・関心をもって学習に取り組んでいた。地域の教材を資料として用いることによって、児童の学習意欲を高めることができたように思う。また、授業後、少々の困難に出会ってもくじけず、最後まで粘り強く努力をしようとする児童の姿が見られるようになった。児童が自らの意志で生活の中で実践していけるように、さらなる取組を進めていきたい。

◆ 実践から学ぶ ◆

中心発問に対する児童の反応から、ねらいに迫る展開がなされたことが推測されます。板書については、文章量を減らし、場面絵を効果的に活用しています。さらに短文で表現し、多くの児童の意見が散りばめられると、より効果的な板書になります。

実施学年
小学校
5年生

主題名 伝統を守る 内容項目：4-(7)

資料名 伝える匠の技—紀州漆器—

1 ねらい

のりえの「伝統」「文化」に対する考え方の変容をとおして、郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、郷土を愛する心情をはぐくむ。

2 資料について

本資料は、紀州漆器の伝統工芸士にインタビューしたのりえが、伝統工芸を守り、受け継いでいくことの難しさを知ると同時に、父親とともに塗師として生きるお姉さんの言葉に、強い意志を感じ、心を動かされるという内容である。

資料は、以下の場面から構成される。

1の場面 主人公のりえは、母に頼まれたみかんとりを断り、友だちと紀州漆器の聞き取り調査に出かける。

2の場面 紀州漆器について、伝統工芸士の親子から話を聞く。

3の場面 伝統工芸士のお姉さんの言葉に、はっとする。

4の場面 のりえの気持ちに変容し、今の思いを母に伝えたいと思う。

1の場面では、のりえの家は代々続くみかん農家で、手伝いを頼まれたが総合的な学習の時間の調査に行くという理由でさぼってしまう。みかんとりの手伝いをさぼったのりえの気持ちに寄り添わせる。

2の場面では、伝統工芸を受け継いでいくことの難しさを読み取らせる。ここで、代々続く紀州漆器の工房であるお姉さんの家同様、のりえの家も代々続くみかん農家であることを、子どもの発言を通じておさえていく。

3の場面では、どうしてのりえはお姉さんの言葉を聞いてはっとしたのかを考えさせる。そして、昔ながらの紀州漆器を守ろうと、父親とともに塗師として生きるお姉さんの強い意志が、のりえの気持ちを変容させるきっかけとなったことを読み取らせる。

4の場面では、のりえは変容した気持ちを、母にどのように伝えるのかを想像させる。

終末では、「伝統」は、受け継ぎ守ろうとする人の思いやはたらきがあってこそ「伝統」となっていくことに触れ、伝統を守ることに對する考えを交流させ、郷土を愛する心情をはぐくみたい。

3 展開

※「◎」は中心発問 「・」は児童の発言、反応等

	学 習 活 動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 自分たちが住んでいる地域に昔から伝わっているものを発表する。	◎ みんなが住んでいるこの地域に、昔からあるものや伝えられてきたものには、どんなものがありますか。 ・ 根来寺 ・ 根来塗り ・ 根来の子守唄	・ 漆器の実物を用意し、社会科で学習した内容を想起させる。
展 開	2 「伝える匠の技—紀州漆器—」の範読を聞いて、のりえの気持ちを話し合う。	◎ のりえはみかんとりの仕事をどう考えていますか。 ・ コンテナが重くて、運ぶのに疲れる。 ・ さぼりたい。 ◎ お姉さんの言葉にはっとしたのりえはどんなことを考えたのでしょうか。 ・ 六百年続いた仕事でも、後を継ぐ人がいないとなくなってしまうんだ。 ・ 自分は家の仕事をさぼったのに、お姉さんは家の仕事をとても大事に考えているんだ。	・ 自分の家の仕事に対するのりえの考え方を明らかにしておく。 ・ 「今まで当たり前だと思っていたことが当たり前ではないと知ったの。」というお姉さんの言葉は、具体的にどういうことを言っているのかを考えさせる。

	学 習 活 動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
展 開	3 のりえがお母さんに一番話したいことは何かを考え、ワークシートに書いて、グループで交流する。 	◎ 「私、お母さんに話をするわ。」と言ったのりえが、一番話したいことは何ですか。 ・ みかんとりをさぼったことを謝りたい気持ち。 ・ 紀州漆器の仕事について聞いてきたこと（引き継ぐ人がいない）。 ・ お姉さんが、家業の紀州漆器の仕事を引き継ごうと決めた話。	・ どうしてそう考えたのかという理由や具体的な内容を互いに聞き合いながら交流させ、考えを深めさせる。
終末	4 伝統を守ることに對する自分の考えをまとめる。	○ 今日の授業で考えたことや、学んだことを書きましょう。	・ 書く時間を十分とる。

4 授業の記録

◎中心発問 「私、お母さんに話をするわ。」と言ったのりえが、一番話したいことは何ですか。

児童の反応 ①のりえは、お姉さんがお父さんの後を引き継ごうと思ったという話を聞いて、みかん農家も紀州漆器と同じくらい大切だから、自分も引き継ごうと思った。

②紀州漆器の工房のお姉さんの話を聞いて、自分の家の代々続くみかん農家も大切にしようと思ったから、みかん農家を受け継ぎたい。

③紀州漆器は代々受け継がれてきたから、自分も代々続くみかん畑を守ろうと思った。

④最初、のりえは、みかんをとるのが面倒くさかった。けれど、紀州漆器の話を聞いて、私も代々続くみかん畑を受け継ごうと思った。

5 板書等



6 実践を終えて

道徳読み物資料集「心のとびら」と、社会科の学習として根来塗りや根来の子守唄等の地域に古くから伝わっているものについて学習することで、子どもたちは、「代々続くみかん農家を守らなければいけない。」「みかん農家を受け継いでいく。」「伝統を引き継ぐことは立派なこと。」など、身近にある伝統や、伝統を守ることに對して考えることができていた。

◆実践から学ぶ◆

教材解釈が深く、適切な発問で構成された展開です。また、導入で漆器やみかんの実物を使用していることに粋な計らいが感じられます。終末は、必ずしも「伝統を守る」ことに収束しなくても、ねらいに迫ることができる展開です。

実施学年
小学校
3・4年生

主題名 日本と外国とのつながりを考える

内容項目：4-(6)
(関連価値3-(1))

資料名 クヌッセン機関長

1 ねらい

和歌山県とデンマークとのつながりが今なお続いていることを知ることによって、外国とのつながりを大切にしようとする心情を育てる。

2 資料について

本資料は、冬の大しけの海で火事を起こし助けを求めている日本の船を、デンマークの貨物船が救いに来てくれたという実話をもとにして書かれている。クヌッセン機関長は、海に落ちた日本人を助けようと飛び込んだが、二人とも帰らぬ人になってしまった。悲しい出来事ではあるが、クヌッセン機関長の尊く勇気ある行いに感謝し、今なお記念祭が行われたり、地域の人が供養塔を掃除し花を供え続けたりしている。本主題の指導に当たっては、まず導入でさまざまな国に関心をもたせ、資料を読んだ後の児童の感想から、国籍に関係なく人の命を救おうとする勇気ある行動について考えさせたい。展開部分では、日本とデンマークの今なお続く関係を話し合うことで、外国とのつながりを大切にしようとする心情をはぐくみたい。さらに、終末段階では、意見の交流から、児童がもう一度つながりについて考えを深めていけるようにしたいと考える。

3 展開

※「◎」は中心発問 「・」は児童の発言、反応等

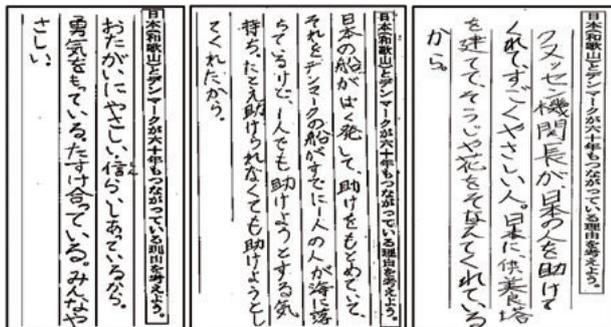
	学 習 活 動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 知っている外国の人について出し合う。	○ 外国の人で知っている人はいますか。 ・ ALTの○○先生 ・ スポーツ選手の○○	・ デンマーク国旗を見せる。 ・ 世界地図で、国の位置を確認する。
展 開	2 本時のめあてを知る。 3 資料を読んで話し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 日本とデンマークが60年もつながっている理由を考えよう。 </div> ○ 「クヌッセン機関長」を読んで、どんなところが心に残りましたか。 ○ クヌッセン機関長は、どんな思いで海に飛び込んだのでしょうか。 ○ クヌッセン機関長が死んで発見されたとき、集まった人たちは、どんなことを考えたのでしょうか。 ◎ 日本（和歌山）とデンマークが60年もつながっている理由を考えましょう。 ・ クヌッセン機関長が命をかけて助けようとしてくれたから。 ・ 供養塔を建て、今でも花を供え、そうじをしてくれているから。 ・ 和歌山市がワールドカップで支援したから。 ・ デンマークがワールドカップの練習地に和歌山を選んだから。	・ 心に残ったところに線をひかせる。 ・ 冬の荒れた海であることなど、状況の説明をする。 ・ クヌッセン機関長が国籍に関係なく外国の人を助けようとしたことをおさえる。 ・ ワークシートに書かせ、発表・交流をさせる。 ・ 隣同士で意見交流させる。
終 末	4 本時の学習を振り返る。 ・ 本時の感想を書く。 ・ 意見交流をする。	○ 友だちの意見を聞いて、もう一度つながっている理由を考えて感想を書きましょう。	* 日本とデンマークがつながっている理由を自分の考えで書くことができている。 (評価)

4 授業の記録

◎中心発問 「どうして日本（和歌山）とデンマークが60年もつながっているのでしょうか。」

- 児童の反応 ①助けようとしてくれて、ありがとうと思っているから。
 ②花を供え続けてくれて、ありがとうと言っているから。
 ③どちらもありがとうと言っているから。
 ④信頼しているから。

ワークシート 「日本（和歌山）とデンマークが六十年もつながっている理由を考えよう。」



5 板書等



6 実践を終えて

普段は複式で授業を行っているところを今回は同じ教材を用いた単式として行ったが、どちらの学年も互いに気後れせず良い影響を与えながら学習ができた。低学年では姿勢の崩れが気になるので座席も前向きにすることが多いが、学年が上がるとさらに話し合いが活発になるように、丸やコの字型で座るなどの工夫が必要である。また、自らの考えを書いてから話し合う場合、ただ書いたものを読むのではなく、書いたものを伏せて話し合う方が自分の考えを伝える意識が強くなるので、道徳の時間に限らず、普段の授業から指導をすることが必要である。道徳の時間では、話し合うことで相手に伝えることができ、聞くことで価値を確認し合う。たくさん話し合い、最後に振り返りカードに書いて、評価につなげるだけでなく、さらに振り返りを交流することによって、より道徳的価値に迫ることができる。

また、話の内容が理解しやすいようにと紙芝居風の絵を用意し、視覚に訴えたことは、中学年の子どもたちには非常に効果的であった。子どもたちは本資料から、日本（和歌山）とデンマークの深いつながりを知り、その理由として、感謝の気持ちや優しさに気づき、その大切さを改めて実感することができた。

子どもたちが発するつぶやきの中には、道徳性豊かなすばらしい言葉や、読み物資料集に深く切り込む言葉があるので、教師はそういったつぶやきに気付く感性をもつことが大切である。また、子どもたちが何でも話し合える雰囲気づくりを心がけ、教室の花でさりげなく季節を感じさせたり、上質な本を手元にそろえておいたりすることで道徳的な心を耕すといった、学級経営や教室環境も大切にしたい。

◆実践から学ぶ◆

「道徳の時間」において、「めあて」を提示し、その先にある道徳的価値に迫らせる授業展開が興味深い実践です。それは、特に、出てくる人みんながよい人の場合に有効であると考えられます。板書の量が少し多いですが、手描きによる場面絵の提示も効果的です。

実施学年
小学校
6年生

主題名 **生き方について考える**

内容項目：1-(2)
(関連価値4-(7))

資料名 **石に魂をこめるー石屋忠兵衛ー**

1 ねらい

郷土に生きた人々の思いや後生のために尽力した人々の情熱を知り、自分もくじけないで努力しようとする心情をはぐくむ。

2 資料について

本資料は、主人公の石屋忠兵衛の働きを中心に、紀州藩の文化の発展に尽力した藩主の思いや、後世の湯浅の人々のことを考えて深専寺門前の石碑建立のために尽くした人々の心意気を描いた話である。本主題の指導に当たっては、石屋忠兵衛が石碑に込めた思いを話し合い、考えることによって、児童が先人への尊敬や感謝の念を深めるにとどまらず、自分も高い目標に向かってあきらめることなく努力しようとする心情をはぐくみたい。さらに終末段階では自分の生き方について考え、感想を交流することをとおして、希望や目標をもって生きようとする態度を養えるのではないかと考えている。

3 展開

※「◎」は中心発問 「・」は児童の発言、反応等

	学 習 活 動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 郷土には、誇るべきことがたくさんあることを知る。	○ 私たちの町や和歌山県で、何か自慢できることはありますか。 ・ 自然が豊か。 ・ 奇岩がたくさんある。	・ 資料につなげるための簡単な受け答えにする。
展 開	2 本時のめあてを知り、資料を読んで考える。 3 忠兵衛の生き方について感想をもつ。	忠兵衛さんの生き方について考えよう。 ○ 一位様に命じられて石橋の欄干をつくるとき、忠兵衛はどんなことを考えたのでしょうか。 ・ 日本一の橋にしたい。 ・ 最高のものをつくりあげるぞ。 ◎ 深専寺門前の石碑に忠兵衛はどんな思いを込めたのでしょうか。 ・ もし震災があっても、大勢の人が助かってほしい。 ・ 町の人たちの役に立ちたい。 ・ 後世の人々のために、自然の怖さを伝えたい。 ○ 忠兵衛さんの生き方からどんなことを学びましたか。 ・ あきらめない。 ・ 地域の人々のためにがんばること。	・ 仕事への誇りや職人の意地・職人魂、郷土への思いがあることをとらえさせる。 ・ 郷土の人々を守りたいという思いに気付かせる。 ・ ペアで話し合う。 * 忠兵衛の石碑に込めた思いについて考えることができているか。(評価) * 高い目標をもつことや、努力することについて、自分の考えを書くことができているか。(評価)
終 末	4 授業を振り返る。	○ 忠兵衛さんの生き方をとおして、学んだことや考えたことは何ですか。	・ 感想を交流し合う。

4 授業の記録

◎中心発問 「深専寺門前の石碑に忠兵衛はどんな思いを込めたのでしょうか。」

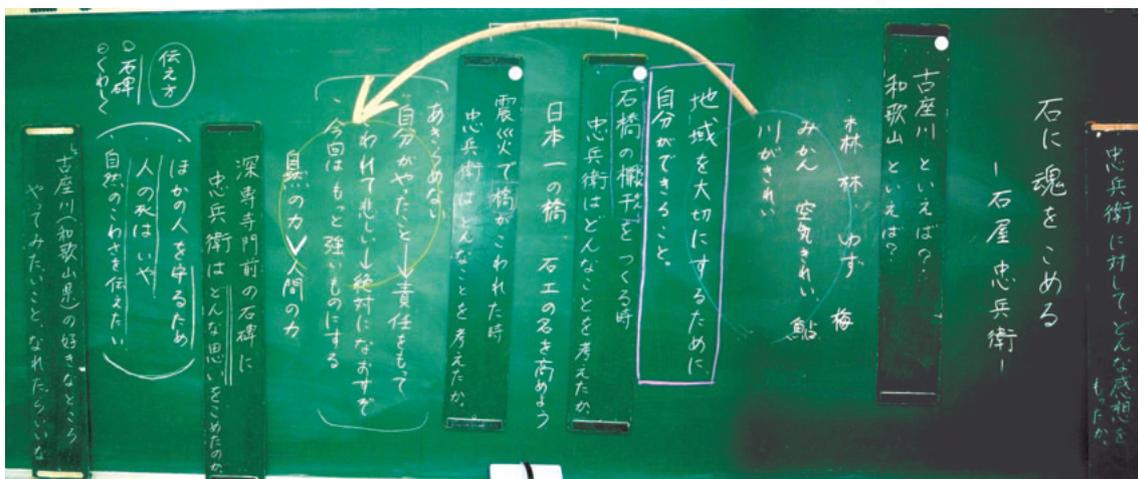
- 児童の反応
- ①石碑を建てて他の人を守りたい。
 - ②村の人に死んでほしくないし、自然のこわさを後生に伝えたいと思った。
 - ③口で言っただけではあかんから、後生に伝えたい。
 - ④浜へ逃げないようにしてほしい。

ワークシート 「忠兵衛さんの生き方から、何を学びましたか？」

忠兵衛さんの生き方から、何を学びましたか？
自心のおそろしさを学び、
命の大切さを学び、
あきらめなければいいことがある
田舎のことを改めて考えた
自分のやつたことにはまじまじと
いうことを学んだ。

忠兵衛さんの生き方から、何を学びましたか？
「死に」の精神
あきらめない心
忠兵衛さんの生き方から、何を学びましたか？
何事にもあきらめずにやりとげること。
自分以外の人のために、何かをしたり、伝えてい
たいと思う心を学んだ。

5 板書等



6 実践を終えて

この資料のように、長文で内容の理解が難しい場合は、児童がすぐに内容を理解できるように、家庭学習等で事前に読んでおくようにしたり、教師が整理して解説したりすることが必要である。全教員がしっかりと資料を読み、起承転結の構成、中心場面や中心発問を考えるなどの教材研究を行う中で、教材分析が深まった。

また、板書においては、事前に児童の反応を予想し、1時間の板書計画がしっかりとできていることの重要性を痛感した。なお、構造的でわかりやすい板書にするため、次の3点について特に心がけた。①「気持ち・中心発問・本文の抜き出し・大事な言葉」などを板書するときのチョークの色を決めておく等、色チョークの効果的な使い方を考えること。②主人公の思いの変化があるところは、矢印を大きく使うこと。③子どもの意見や言葉は大事にしながらも、キーワードなどの短い言葉で表現し、ねらいとする価値を類型化して板書すること。

本校では、どの授業においても最初にめあてを示し、児童一人一人に見通しをもたせることを大切にしてきたので、道徳の時間のめあては必要かどうかについても研究してきた。その際、「くじけず努力しよう。」のようにねらいとする道徳的価値について直接触れるのではなく、「忠兵衛さんの生き方について考えよう。」のようなめあてを示すことが適切であると考えた。本教材のような偉人伝を扱う際は、「主人公の行いの原動力となったものは何か？」を問いかけることで、道徳的価値に迫ることができるのではないかと考えている。

◆実践から学ぶ◆

本資料は長文ですが、児童の反応を見ると、主人公の言動に寄り添い、深く考えられている様子が見えがえます。板書について、児童の発言を短文にまとめているように、発問もさらにコンパクトになれば、より明確な板書になります。また、指導案に評価の観点が示されていることも、今後必要になってくる視点です。

実施学年
中学校
3年生

主題名 **あたたかい人間愛（人間愛・思いやり）** 内容項目：2-（2）

資料名 **つなぐ思いーエルトゥール号ー**

1 ねらい

温かい人間愛の精神を深め、常に相手のことを思いやり行動しようとする心情をはぐくむ。

2 資料について

明治23年（1890年）に和歌山県串本町沖で遭難・沈没し、600人近い犠牲者を出したトルコ軍艦「エルトゥール号」の乗組員を、樫野をはじめとする大島に住む人々が救助し、蓄えていた食料を全て提供し、救助したトルコ人を人肌で温め精魂尽くして介抱に努めた。この出来事は、トルコで広く語り継がれており、エルトゥール号の遭難から100年近く経った1985年、イラン・イラク戦争が激化する中、テヘラン空港に残された日本人のためにトルコ政府が救援機を飛ばし、日本人全員を脱出させたという実話に基づく資料である。

当時、通信も救助機関も十分な食料もない離島で、救助は極めて困難だったはずである。しかし、遭難者がいれば何をおいても助けるといふ、理屈ではない大島の人々の人間愛は、100年以上も続くトルコの人々の親日感情に結びついている。また、生徒にとっては、身近な地域で起きた出来事であることから、同じ日本人として自覚と誇りを持ち、世界平和や人類の生命のために貢献しようとする心をはぐくむこともできる資料である。

3 展開

※「◎」は中心発問 「・」は生徒の発言、反応等

	学 習 活 動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 トルコについて知っていることを発表する。	○ この国旗は、どこの国のものですか。 ・ アメリカ ・ イギリス ・ 韓国 ・ トルコ ○ 「トルコ」について知っていることはありますか。 ・ サッカー ・ 去年の文化発表会 ・ カップドキア ・ エルトゥール号	・ テンポよく扱う。 ・ 昨年度の文化発表会等、テンポよく扱う。
展 開	2 資料①を読んで、遭難者のために必死になって働いた大島の人々の気持ちを考える。 3 「つなぐ思い」について考え、話し合う。	○ ありったけの食料と着物を提供し、必死に救出活動を行った樫野や大島の人々には、どんな思いがあったのでしょうか。 ・ 何とか助けたい。 ・ 異国の人であっても、同じ人間にかわりはない。 ・ 目の前で助けを求めている人に、できるかぎりのことをしてあげたい。 ◎ あなたは、樫野をはじめとする大島の人々の行動をどう思いますか。また、その理由も書きなさい。 ・ すごい。 ・ 人を大切に思う気持ちに国境はない。 ・ 助けたい思いに今も昔もない。 ・ 自分もそんなふうに使われる人になりたい。 ・ 自分たちのことより、相手のことを考える樫野の人たちはすごい。	・ 生徒の発言を十分受容する。その上で、「樫野や大島の人々に迷いはなかったのか。」と問い返しながら、生徒の思考を深めていく。そして、村人たちの、「ただ助けたい」という思いに満ちた行動がそこにあったことに気付かせる。 ・ 「そう考えた理由は何ですか。」と問い返したり、付け加えの意見を求めたりしながら、生徒の思考を深めていく。 ・ トルコと日本、120年以上前と現在、時空をこえた人間尊重、生命尊重の精神がそこにあることを理解させる。 ・ 大島の医師たちが、見返りを受け取らなかったことにも触れる。 ・ イラン・イラク戦争のとき、イラン在住の日本人を救出するためにトルコが救援機を出してくれた逸話を紹介する。
	4 イラン・イラク戦争の出来事からトルコとの関係を考える。 ・ 資料②を読む。	○ 1985年3月（29年前）、あることが起こります。それは何だと思えますか。 ・ 何かわからないが大変な出来事 ・ 天変地異 ・ 大震災 ・ イラン・イラク戦争 ○ この後、イランに残っていた日本人はどうなったと思えますか。 ○ なぜ、トルコの飛行機は危険をおかして、日本人を助けに行ったのでしょうか。 ・ 日本が好きだから ・ エルトゥール号のときのお返し	・ 問いかけのみとし、生徒の関心を高めさせる。 ・ トルコと日本の関係を再確認する。

	学 習 活 動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点
展 開	・ 資料③を読む。	○ 最後のエピソードを紹介します。	・ 余韻に浸る。 ・ トルコの日本に対する思いを知る。
終 末	5 授業を振り返る。 ・ 本時の感想を書く。	○ 今回、日本とトルコの間を再度確認して、どう感じましたか。感想を書きましょう。	・ 早く書けた生徒に感想を発表させる。

4 授業の記録

発問1 榎野や大島の人々は、どんな思いがあったのでしょうか？

- ・ 困っている人を助けようという思い
- ・ とにかく助けなければいけない
- ・ 一人でも多く助けたい
- ・ 一人も死なせてはいけない

発問2 榎野や大島の人々の行動をどう思いますか？

- ・ 優しい
- ・ さすがだと思った
- ・ いい人
- ・ 日本の顔
- ・ 親切
- ・ 人として最高
- ・ 見習わなければならない

発問3 なぜトルコの飛行機は日本人を助けに行ったのでしょうか？

- ・ 恩返し
- ・ エルトゥールル号のとき、日本が助けたから
- ・ 昔助けてもらったから
- ・ 日本人＝トルコ人

5 板書等

「つなぐ思いーエルトゥールル号ー」



トルコ航空機の200席を日本人に割り当てます。
利用してください。(トルコ大使館)




脱出希望者はほぼ全員がイランを出国。
トルコ航空機で215人。

榎野や大島の人々の行動をどう思うか？

- ・ 良い行動
- ・ 自分には出来ない
- ・ やさしい
- ・ 見ず知らずの人を助けるのはすごい。
- ・ 今なお、追悼する取組みに榎野の人の思いが重なる。
- ・ 人としてあたりまえ
- ・ 立派




榎野や大島の人々の思い

- ・ 何とか助けたい
- ・ 1人でも多くの人を。
- ・ けがをしている人を助けよう。
- ・ トルコ兵を助ける。
- ・ 多くの命を助ける。
- ・ 異国の人でも、同じ人間に変わりはない。
- ・ 目の前の困っている人に出来る限りのことをしたい。

なぜ、トルコの飛行機は、日本人を助けに来たのか？

- ・ 日本人を危険なまま放っておけない。
- ・ 昔、助けてくれたから。
- ・ 前に助けてもらった。
- ・ 日本人にお礼がしたい。
- ・ エルトゥールル号のお返し。




6 実践を終えて

本校では、昨年度の校内文化発表会で、エルトゥールル号についての劇を生徒会が行った。そのため、生徒たちは、この話についてはある程度の知識があった。しかし、このエルトゥールル号についての事実のみしか知らなかったのも、新たな発見があり、エルトゥールル号の出来事についての再確認ができた。

授業の感想には、「無償で人助けを行う素晴らしさ」「温かく誰にでも優しくできるような人になりたい」「日本とトルコの間に関係の深さ」「和歌山の人たちも立派だが、そのことを忘れず100年たっても恩返しをしたトルコ人はすごい」などの感想があった。

本県で起こった出来事であり、また100年たった現在にもつながる話であるということから、生徒が身近な話を感じながら考えることができた。

課題としては、「人間愛」をはぐくむことにつながらず、日本とトルコの間に関係の深さに結びついてしまい、「4－(10)世界の人々の関わり」に意識を向ける生徒も少なからずいた。導入で、ねらいとする価値への方向付けが必要であった。

今回の授業では、本年度の生徒の実態をふまえると、読み物資料としては少し長いように感じたので、「昔」と「現在」の2つに分け、提示の仕方を工夫した。また、その後の日本とトルコの内容（イラン・イラク戦争の救出劇）を追加資料として加えて、読み物資料とともに効果的に扱った。これらの工夫により、生徒の興味・関心をより一層引き出すことができると感じた。

◆ 実践から学ぶ ◆

指導上の留意点が適切で、より具体的に「どのようにするか」が記載されています。また、生徒の反応の中に「和歌山の人もすごいが、トルコの人も素晴らしい」との意見があり、国際理解にもつながっています。

実施学年

中学校

1 年生

主題名 いじめを許さない心 内容項目：4-(3)

資料名 今しかない

1 ねらい

正義を重んじ、誰に対しても公正、公平にし、差別や偏見、いじめのない社会の実現に努めようとする態度を育てる。

2 資料について

中学生の時期は、学級や部活動などのさまざまな場でさまざまな仲間と協力し合い、友情をはぐくむ時期である。しかし、ときには仲間とぶつかり合い、自分との違いを受け入れられずに相手を除外しようとしたり、自己中心的な発言や行動で相手を傷つけたりすることや、相手がどれだけ傷ついているかに気付くことなく、いつの間にか「いじめ」の加害者になっていることがある。また、内心いけないと思っても、勇気を出してとめるなど、正義の実現に努めることに、消極的になってしまうことも多い。

本資料を活用して、登場人物の立場に立って考えさせることで、自分も同級生たちのように誰かを傷つけていないか、見て見ぬふりをしたり、避けて通ったりという消極的な姿勢をとっていないかなど、自分の生活を振り返るきっかけにするとともに、いじめや不正な言動を断固として否定する勇気をもつ心の強さを培いたい。

3 展開

※「◎」は中心発問 「・」は生徒の発言、反応等

	学 習 活 動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1 友達について考える。	○ 友達とは、どんな存在ですか。 ・ 何でも相談できる。 ・ 困ったとき助けてくれる。	・ テンポよく数名の生徒を指名し、意見を聞いていく。
展 開	2 資料を読んで話し合う。	○ C子が、「むかつく。」と言ったのを「私」はどうして聞こえなかったように振る舞おうとしたのでしょうか。 ・ 次は「私」がいじめられると思ったから。 ・ 勇気が出なかったから。 ○ A子の机に落書きが書かれたことについて、「私」はどのように思っているのでしょうか。 ・ やりすぎだ。 ・ A子のことが心配。 ・ B子もだめになってしまうと不安に思っている。 ○ A子はいじめられている立場です。では、「私」はどんな立場だと思いますか。 ・ いじめている立場。 ・ 何もしていない。 ・ 見て見ぬふりをしている。 ◎ 「私」はどんな思いでB子に声をかけようと思ったのでしょうか。 ・ 今のB子になら話せるかも。 ・ A子に対するいじめは悪いこと。もうやめるべきだ。 ・ B子もやめたいのかも。言うなら今しかない。	・ 挙手が少ないようであれば、テンポよく、生徒を指名していく。 ・ 「私」の立場になって考えるように、「胸がしめつけられた」「苦しくなった」等の心情に迫る問い返しを行う。 ・ 見て見ぬふりもいじめを認めることになると気付かせる。 ・ 「どうしてそう思うのですか。」等の問い返しや、「『私』は何が不安なのですか。」等の補助発問を行いながら、生徒同士の考えをつなぎ、生徒の思考を深めていく。

	学 習 活 動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点
終末	3 授業を振り返る。 ・ 本時の感想を書く。		・ 時間を十分とり、感想を書かせる。

4 授業の記録

- 友だちとは、どんな存在ですか。
 - ・ 大切な存在。 ・ いざというとき助けてくれる。
- C子が、「むかつく。」と言ったのを、「私」はどうして聞こえなかったように振る舞おうとしたのでしょうか。
 - ・ かかわりたくないから。 ・ 自分も嫌われるから。
- A子の机に落書きが書かれたことについて、「私」はどのように思っているのでしょうか。
 - ・ なぜあんなことをするのか。 ・ かわいそうだけど「私」はされたくない。
- A子はいじめられている立場です。では、「私」はどんな立場だと思いますか。
 - ・ A子をいじめている。 ・ 見て見ぬふりをしている。
- ◎「私」はどんな思いでB子に声をかけようと思ったのでしょうか。
 - ・ A子、B子のためにも、声をかけよう。 ・ また無視されるかもしれない。

5 板書等

私の決心
「今しかない」

今のB子なら話せる。
・ A子へのいじめは、悪いこと。
いじめは、もう止めるべき。
・ 勇気を出して、言うなら今しかない。

「私」の立場

- ・ 見て見ぬふり
- ・ 何もしていない

いじめられている立場

はじめ

C子 → A子

B子 → A子

そのうち

C子 → A子

B子 → A子

みんな → A子

「今しかない」

- ・ 何でも相談できる。
- ・ 大切な存在、一緒にいると楽しい。
- ・ つかつかうとき、助けられる。

友達とは？

私	C子	B子	A子	
		キャプテン	エース(1年から)	バレー部
			学級委員	クラス

6 実践を終えて

本授業においては、「座席配置、範読、発問」の3点について工夫して実践を行った。まず、座席配置をコの字型にしたことで、話し合う雰囲気が高まり、生徒の本音を引き出したり、生徒同士が考えを深め合うことに効果的であった。また、資料理解を深めるために、丁寧に範読することを心がけた。これまで、生徒を指名して範読させたり、各自黙読させたりなど行ってきたが、中学生であっても教師による範読が資料理解につながることを実感した。さらに、発問においては、主人公である「私」の思いを問うようにした。この発問の工夫により、生徒は「私」の心の葛藤を感じ取りながら発言し、自分の考えを深めることができた。

課題としては、主発問の場面で話し合う時間を確保するために、導入など時間配分を工夫する必要がある。また、ワークシートの記入においては、各場面をさらに焦点化することで、生徒の意識を高めることができると感じた。今後は、場面に応じた指名の仕方や、ねらいとする価値に迫る補助発問や問い返しなどの工夫を一層図りたい。

◆ 実践から学ぶ ◆

常に主人公を中心とする発問で授業が展開されており、生徒が主人公に役割取得して考えやすい工夫がなされています。ねらいについては適切ですが、もう少し具体的なものにした方が明確になります。

実施学年

中学校

1 年生

主題名 公德心、よりよい社会の実現 内容項目：4-(2)

資料名 後世の人々に託すー浜口梧陵ー

1 ねらい

地域のために尽くした浜口梧陵の努力を知り、よりよい社会の実現に努めようとする心を育てる。

2 資料について

浜口梧陵は、和歌山県の政治、教育、防災等において非常に大きな役割を果たした人物である。こうした浜口梧陵の業績をもとに、彼が未来の人々に託した思いについて考えさせ、よりよい社会の実現に努めようとする心をはぐくみたい。

3 展開

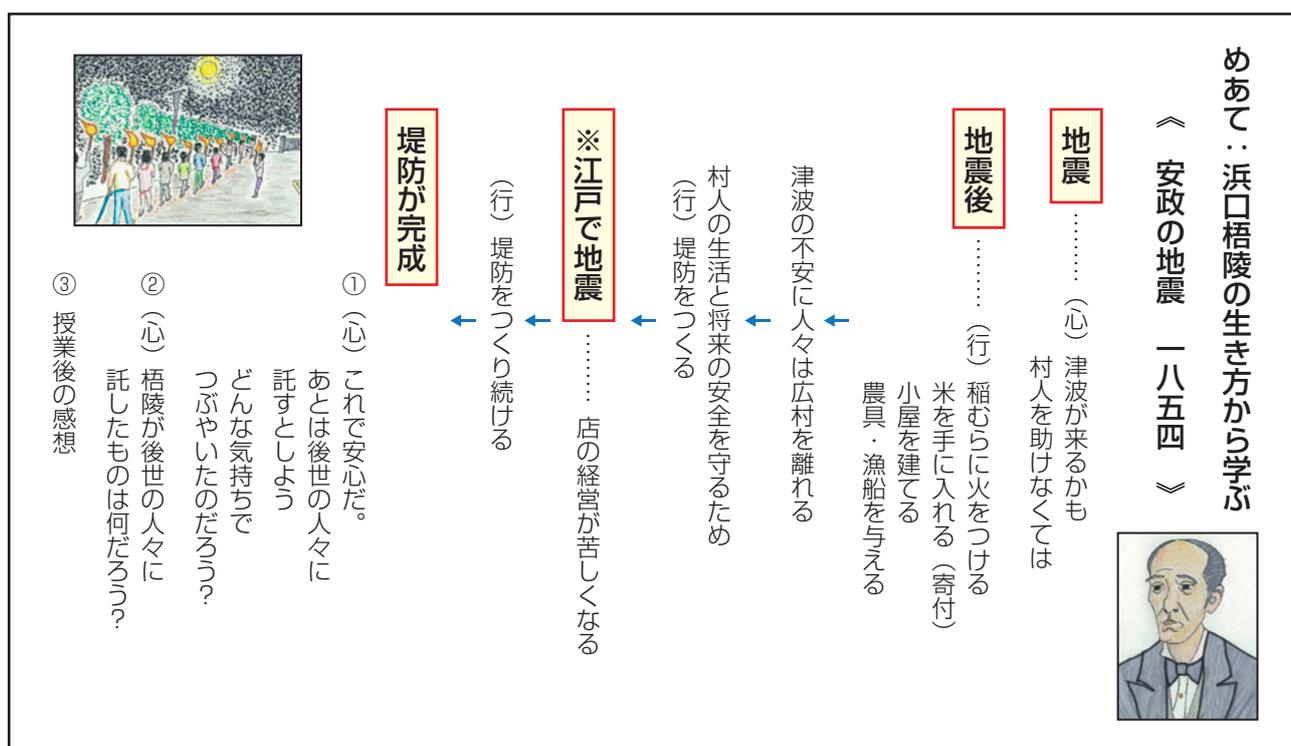
※「◎」は中心発問 「・」は生徒の発言、反応等

	学 習 活 動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1 稲むらの火の館を訪問したことを振り返る。	○ 浜口梧陵について、どのようなことを知りましたか。 ・ 津波から人々を守った人 ・ 稲むらの火の主人公 ・ 和歌山県議会の初代議長	・ テンポよく梧陵の業績を確認する。
展 開	2 資料を読んで話し合う。 ・ 梧陵の行動を確認する。	○ 地震が起きたとき梧陵はどんなことを思いましたか。 ・ 津波がくるにちがいない。 ○ 梧陵はどんなことをしましたか。 ・ 家族や村人を高台にある神社に避難させた。 ○ 離れていく村人を見て梧陵はどんなことを考えたと思いますか。 ・ 復旧作業を行い、安心な村をつくろう。 ◎ 「これで安心だ。あとは後世の人々に託すでしょう。」と梧陵が静かにつぶやいたとき、どんな気持ちだったでしょうか。 ・ これで広村はみんなが守ってくれる。 ・ また津波がきても大丈夫だ。 ・ 自分にできることはすべてした。 ○ 梧陵が後世の人々に託したものは何ですか。 ・ 広村を自分たちの力で守っていこうとする心	・ 梧陵の写真を貼る。 ・ 梧陵のとった行動を確認させる。 ・ 「心が痛んだ」という言葉から、故郷を離れていく村人と思う梧陵の思いを推測させたい。 ・ 思いつくものをすべて、理由もあわせて発表させる。 ・ 考えて書く時間を十分にとる。 ・ できるだけ多くの生徒の考えを発表させる。 ・ 生徒の意見を受容した上で、「どうしてそう思うのですか。」「具体的に話してくれますか。」等の問い返しを行いながら、思考を深められるようにする。 ・ 「津浪祭」の写真を掲示する。
終 末	3 授業後の感想を書く。		・ 時間があれば、「ノーブリス・オブリージュ」を黙読させ、余韻をもたせる。

4 授業の記録 (ワークシートの生徒の記載から抜粋)

- 「これで安心だ。あとは後世の人々に託すでしょう。」と梧陵が静かにつぶやいたとき、梧陵はどんな気持ちだったのでしょうか。
 - ・広村のみんなが自分たちの手で村を守ろうという気持ちになったので安心した。また、津波が来ても広村は大丈夫だろう。この堤防を後世の人たちに大切にしてもらいたい。自分はやりきった。
- 梧陵が後世の人々に託したものは何かを考えよう。
 - ・広村を守る堤防と未来の人たち。自分の今の楽しさや生きていること。
- 授業の感想
 - ・梧陵さんの思いが伝わってきて、その思いを受け継ぐ必要があると思った。最後までやりとげた梧陵さんを尊敬します。
 - ・いい話でした。浜口さんはやさしいです。私も浜口さんみたいになりたいです。
 - ・浜口梧陵さんはみんなを守った大ヒーローだと思った。自分の店がつぶれそうになっても広村の堤防作りを続けたところがかっこいいなと思った。

5 板書等



6 実践を終えて

ワークシートの記載内容、生徒の授業中の発言等の学習活動から、ねらいは概ね達成できたと考えられる。発問等を書いた短冊の使用は、考える時間の確保、登場人物の行動と心情の整理に有効であった。生徒に「堤防のような形あるもの」以上に、「よりよい社会の実現に努めようとする心をもつこと」の大切さに気付かせるためには、発問などの工夫がさらに必要である。生徒が知っている和歌山の偉人の資料は、親近感があり和歌山についての自信と誇りを実感をもって味わわせることができた。

◆実践から学ぶ◆

明確なねらいを設定し、そのねらいに迫る中心発問となっています。丁寧な展開で、主人公に寄り添って考えを深める工夫がなされています。さらに発問を精選し、「家業が危機に瀕しても堤防作りを続けた思い」にも触れることで、道徳的価値に対する見方、考え方が深まります。

実施学年

中学校
2年生

主題名 高い志をもつ 内容項目：1-(4)

資料名 よりよいものを求めてー上山英一郎ー

1 ねらい

英一郎の生き方と現実の自分を重ね合わせることにより、現実の厳しさや困難に負けず、理想の実現に努力しようとする態度を養う。

2 資料について

上山英一郎は、渦巻型蚊取り線香を開発した人物である。この資料は自己の理想の実現をめざし、さまざまな課題に対して情熱をもって克服していった英一郎の生き方を描いたものである。展望をもって地道に努力することの大切さや、理想をもって生きることによって意欲がわき、自分の人生が豊かになることにつながることに気付かせたい。

3 展開

※「◎」は中心発問 「・」は生徒の発言、反応等

	学 習 活 動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1 蚊取り線香を見て知っていることを発表する。	○ これは何か知っていますか。 ・ 蚊取り線香、いいにおいがする。 ・ 昔、使っていた。	・ 蚊取り線香を提示し、興味をもたせる。
展 開	2 資料を読んで話し合う。	○ 上山英一郎の人生が大きく変わった場面はどこですか。〈一斉〉 ・ 病気になり、大学生活を途中でやめなければならなかったこと。 ・ 世界で初めて蚊取り線香を発明したこと。 ○ 病気にかかり故郷に戻った英一郎はどんな思いだったのでしょうか。〈グループ〉 ・ 病気なんかに負けない。 ・ 社会に役立ちたい。 ○ 棒状の蚊取り線香をつくり上げたときの英一郎は、どういうことを考えましたか。 ・ やったぞ。ずいぶん苦勞したがやればできる。 ・ これではまだまだ使い物にならない。 ◎ 渦巻型の蚊取り線香から出る煙を見つめながら、英一郎はどんなことを思ったのでしょうか。 ・ ゼロからの出発だったが、これまでの日々が無駄ではなかった。 ・ 苦勞したが、途中で投げ出さずにやってよかった。 ・ 妻のおかげで…。 ・ もっとよいものをめざしてがんばりたい。	・ 主人公について簡単に紹介し、教師が資料を範読する。 ・ 失意の中にも、何とかして自分の進むべき道を見いだそうとする英一郎をとらえさせる。 ・ 病気のこと、家業のこと、自の夢等をもとに考えさせる。 ・ 一応の成功をみた達成感とともに、満足いく結果とはなっていないことから、英一郎のいらだちや、よりよいものをつくることを新たな目標としたことをとらえさせる。 ・ 取り組んだ日々の自分自身の生き方の中に、渦巻型蚊取り線香の完成に結びつく事柄があったことをとらえさせる。
終 末	3 感想を書き、自分の考えをまとめる。	○ 英一郎の生き方からどんなことを学びましたか。	・ 発問を意識させて、まとめを書かせる。

4 授業の記録 (ワークシートの生徒の記載から抜粋)

○英一郎の生き方からどんなことを学びましたか。

- ・人の役に立とうとする思い。よい物を作ったのに、さらによりよい物を作ろうとする思い。
- ・あきらめずに最後までやり通すこと。
- ・病気で和歌山に戻った後もくじけず頑張る前向きな心。

○授業の感想

- ・よいものを作るためにあきらめないうで努力したことは、ものすごくよいと思った。だから、私も英一郎さんのようにあきらめないうで努力をする人になりたいと思った。
- ・やりたいことができなくなっても、別のものをがんばる精神を見習おうと思った。
- ・英一郎さんみたいに努力して、これからも人々に信頼されたいと思う。

5 板書等

よりよいものを求めて — 上山英一郎 —
「蚊取り線香を
苦心してつくり上げた人」

決意

《家業を継ぐか学業に励むか》

病気のため、帰郷

学業のため東京へ

・ 勉強をしたい。
・ 日本を強くするため。

貢献

《上京するか、ここに残るか》

棒状の蚊取り線香発明

・ 何をしてもよいか…
・ 社会に役立ちたい。

挑戦

《煙を見つめながら…》

渦巻型蚊取り線香発明

・ 苦労した甲斐があった。
・ いろいろあったが、
よい製品ができてよかった。
・ これで人々の役に立つ。

6 実践を終えて

ワークシートの記載内容、生徒の授業中の発言等から、ねらいは概ね達成できたと考えられる。また、グループ学習を取り入れたことで、生徒が自分の意見を出せる場の設定ができ、意欲的な学習活動が展開できた。また、道徳の授業での工夫を教科の指導でも生かせるようになった。課題としては、主人公の挫折と意欲を分けて板書したほうがよかったと考える。郷土の偉人を扱うことは、生徒の興味・関心を高め、心情等を考えるのに有効であった。

◆ 実践から学ぶ ◆

導入で蚊取り線香の実物を使用することで、物語への関心を高め、イメージ豊かに考えさせています。グループ学習を取り入れ、終末で自分の考えをまとめさせることで、思考を深める工夫を行っています。さらに構造的な板書を行うことで、生徒の思考の助けとなります。

実施学年
中学校
1 年生

主題名 過ちを受け入れる心 (情報モラル) 内容項目：2-(5)

資料名 はじめての練習試合

1 ねらい

それぞれの立場を尊重し、さまざまなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもとうとする心情をはぐくむ。

2 資料について

近年、子どもたちのネット接続環境が飛躍的に広がっており、本校でもSNSやメッセージアプリを使用している生徒は少なくない。

中学生の時期は、ものの見方・考え方に違いがあらわれてくるとともに、個性がはっきりしてくる。そのために、自分の考えや立場に固持したりする傾向が強くなり、友人との間に意見の対立や摩擦が生じることも少なくない。そこで、互いが相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重するとともに、多様な個性を認めることが大切になる。

本資料では、SNSの「仲間外し」と「悪口の書き込み」というネットいじめの問題を取り上げている。公一は、野球部のエースである優介が、公一のことを思う寛容の心により、自分の軽率な行動を反省する。そして、ネットいじめの対象にした仁史のもとに向かうが、そこでさらに仁史のひたむきさに心を打たれるという話である。公一の心の変容をとらえさせることにより、相手の立場を尊重する心情をはぐくみたい。

3 展開

※「◎」は中心発問 「・」は生徒の発言、反応等

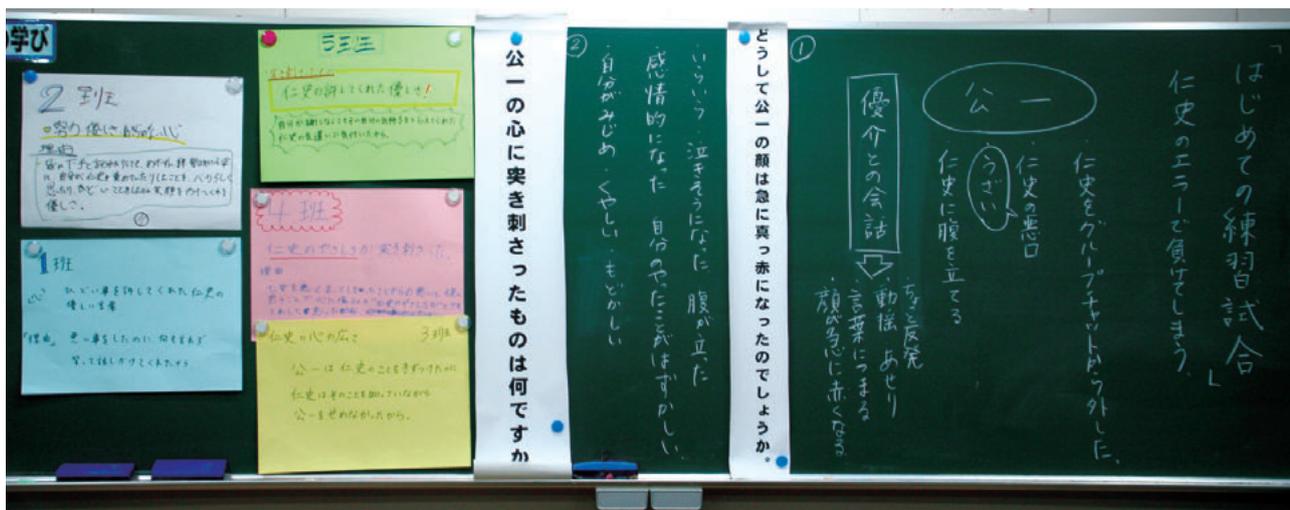
	学 習 活 動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1 初めて大きな舞台に立ったときの気持ちを考える。	○ 初めて大きな舞台（クラブの大会、習い事の発表など）に立ったとき、どんな気持ちでしたか。 ・ とても緊張した。 ・ すごくドキドキした。	・ テンポ良く指名していく。
展 開	2 資料を読んで、内容を確認する。 3 公一の心の揺れをとらえる。 4 公一が仁史から学んだことを考える。	○ 試合のあと、公一はどのような行動を取りましたか。 （一斉学習） ・ SNSのグループから勝手に仁史を外した。 ・ グループチャットで、仁史がエラーしたことを言いふらした。 ○ どうして公一の顔が急に真っ赤になっていったのでしょうか。 （個人学習） ・ 自分の行動を指摘されたから。 ・ 卑怯だぞと言われたから。 ◎ 公一の心に刺さったものは何ですか。 ・ 自分の心の狭さ ・ 野球に対する仁史の思い	・ 教師の範読 ・ 内容を構図化して、理解させる。 ・ 理由の理由を問うような切り返し発問を行い、隠れた根拠に気付かせる。 ・ 個人→班で考えさせる。 ・ 理由を付けさせる。 ・ ワークシートに記入させる。
終 末	5 感想を書く。	○ 今日の学習で、学んだことを書きましよう。	・ 十分に時間を確保する。

4 授業の記録

○中心発問に対する生徒の反応（公一の心に刺さったものは何だろうか。）

- ・「仁史の心の広さ」
理由：仁史は公一が悪口を書き込んだことを知っていたのに、仁史は公一を責めなかったから。
- ・「仁史の許してくれた優しさ」
理由：公一が謝らなくても、その公一の気持ちをとらえてくれた、仁史の気遣いに気付いたから。
- ・「ひどい事を許してくれた仁史の言葉」
理由：悪いことをしたのに、何も言わず笑って話しかけてくれたから。

5 板書等



6 実践を終えて

「はじめての練習試合」を実践するに当たって、「希望へのかけはし」の指導の手引きをもとに、指導案検討などを行った。その中で、ねらいでもある、「寛容の心」に生徒たちが気付くために、主人公の公一の心情を軸に、優介やおばあちゃんなどの助言者との会話や最後の仁史との会話で、公一が気付いたことは何なのかを考えさせるような展開とした。

授業の中でまず印象的だったのが、「どうして公一の顔は急に真っ赤になったのか。」という発問に対して、「腹が立ったから。」「感情的になったから。」など、公一が優介に対して怒りを覚えているという意見がいくつかあったことである。これらの生徒の反応から、生徒たちは普段の学校生活でも、自分の過ちを指摘されたとき、素直に受け止めることができないことが伺える。そして中心発問である「公一の心に刺さったものは何ですか。」という発問に対しては、「仁史の心の広さ」「仁史が自分を許してくれた心」など、ねらいとする価値に迫る意見が多く見られた。

実践をとおして、道徳の授業で生徒が普段の生活でどのように感じているかなどを知ることができ、今後の生徒指導にも生かすことのできるヒントを得ることができた。また、しっかりとした教材研究や協議を重ねることの大切さも改めて感じた。

◆実践から学ぶ◆

導入で「初めて大きな舞台に立ったときの気持ち」を問うことは、その後の展開で相手の立場に立って考えるために効果的です。また、板書に各班での考えを掲示したこと、一斉学習、グループ学習、個人思考の時間等、学習形態を工夫することは、思考を深めるために有効です。

実施学年
中学校
2年生

主題名 人のために尽くす 内容項目：3-(3)

資料名 「マザー・テレサ」から学んだこと

1 ねらい

内なる自分に恥じない誇りある生き方、夢や希望をもって喜びのある生き方をしようとする心情をはぐくむ。

2 資料について

本でマザー・テレサを知り、その言葉によって主人公が葛藤し、心が変容する様を描いている。マザー・テレサの生き方を知り、人間がもつ強さや気高さを感じ取る様子をとおして誇りある生き方に目を向け、精一杯生きようとする心情をはぐくみたい。

3 展開

※「◎」は中心発問 「・」は生徒の発言、反応等

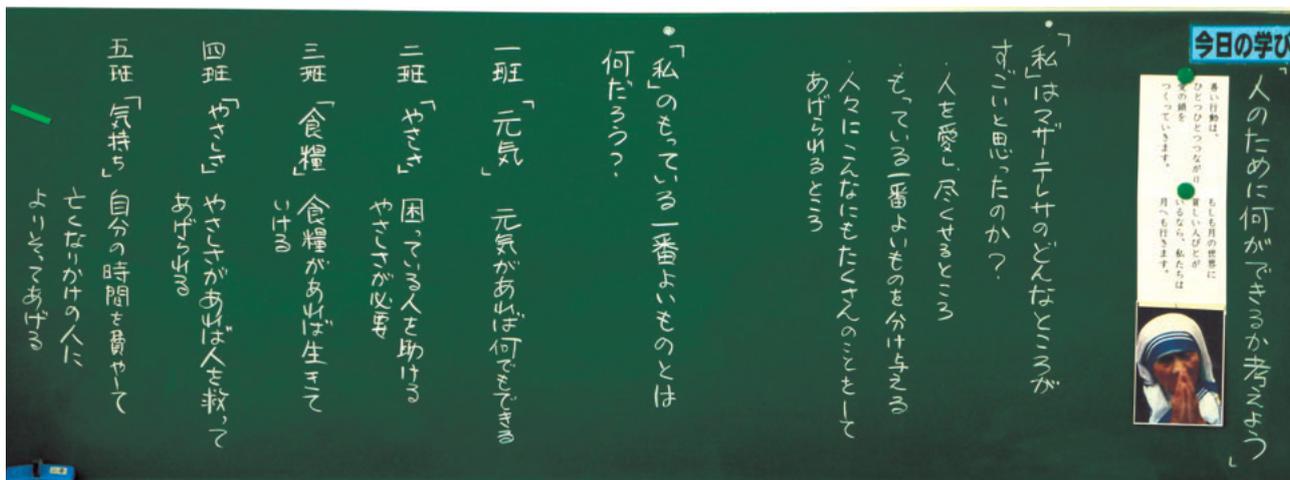
	学 習 活 動	主な発問と生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1 めあて「人のために何ができるか考えよう」について確認する。 2 マザー・テレサについて知る。	○ このような格言を知っていますか。 ○ 格言は、この人が残したものです。誰か分かりますか。	・ マザー・テレサの格言を紹介する。 ・ マザー・テレサの写真を掲示し、マザー・テレサの人生年表を配布することによって、概略をつかませる。
展 開	3 資料を読み、話し合う。	○ 「私」はマザー・テレサのどんどころがすごいと思ったのでしょうか。 ・ こんなに人を愛し、尽くせること。 ・ もっている一番よいものを分け与えること。 ○ 考えれば考えるほど難しいのはなぜですか。 ・ 一番よいものがわからないから。 ・ 自分のよいところがわからないから。 ◎ 「私」がもっている一番よいものとは何だと思いますか。 ・ 時間 ・ 友達 ・ 家族 ・ お金 ・ 服 ・ 心 ・ 命 ○ 「私」は、一番よい物を分け与えられているのでしょうか。 ・ まだ分け与えられていない ・ それが「真剣に考えていかなければならない宿題」	・ 資料を範読する。 ・ 主人公に役割取得させるため、「自分が」ではなく「私(主人公)」であることに注意する。 ・ 個人でワークシートに記入し、その後、見えない根拠をさぐらせるため、班で話し合い、1つにしばらせる。 ・ 班ごとに指名し、発表させる。 ・ 「なぜそれを選んだのか」「どうしてそう考えたのか」「具体的に」「それで相手は喜ぶのか」などの発問で深めていく。
終 末	4 感想を記入し、授業を振り返る。	○ 今日の授業で一番心に残っていることを書きましょう。	・ 十分時間を確保し、感想を交流する。

4 授業の記録

○中心発問に対する生徒の反応（「私」がもっている一番よいものとは何だろう？）

- ・「時間」 理由：自分の時間を使ってそばにつきそってあげることが必要。
- ・「お金」 理由：お金を使って、食べ物や衣類などをたくさんあげればよい。
- ・「やさしさ」理由：やさしさがあれば人を救っていける。
(それが分け与えられるのかどうか、という問いには悩んでいる様子であった。)

5 板書等



6 実践を終えて

【生徒の感想から】

- ・マザー・テレサのように人を愛し、尽くせないとは思うけど、思いやり、やさしさはもち続けていきたい。
- ・人を愛し続けるのは大変だと思った。
- ・マザー・テレサは人のために尽くし愛せたけど、自分のことはちゃんと大切に出来たのか。そこが、難しく思ってしまった。
- ・人のために何かをしたいとはほんやり思っているけど、マザー・テレサの話を知ったら、はじめは自信がなくなってしまった。でも、話し合いの中で、分け与えられるものを話し合っていたら、それを考えること自体が人のためにできていることなのかも、と思った。

【授業者から】

人に分け与えるための「『私』がもっている一番よいもの」を考えていく中で、「命」という答えに対し、「具体的に、どういうこと？」と切り返された生徒がしばらく黙り込み、真剣に頭をひねるワンシーンも見られ、活発な議論が交わされていた。人のために出来ることについて生徒たちはおそらく初めて真剣に考え、また人のために出来ることには限界があるということの気付きがあった。その中で、感想からも見られた「自分に出来る精一杯が出来ればいい。」という意見や、「それを考え続けていくこと自体の大切さに気付いた。」という考えに子どもたちが至ったことが、この道徳教材のよさであると考えられる。

◆実践から学ぶ◆

中心発問「『私』がもっている一番よいものとは何だと思えますか。」は、ねらいを達成するために適切であり、また、板書に各班の意見が効果的に提示されています。この展開からみると、次の発問「私は、一番良いものを分け与えられるのだろうか。」を中心発問としても、考えを深めることができると考えられます。

第Ⅱ章

道德教育の改善・充実に向けた 研修のすすめ

道徳教育の改善・充実に向けた研修のすすめ

1 はじめに

道徳教育の改善・充実を図るためには、各学校において、道徳の教材解釈や授業研究等の研修を充実させていくことが大切です。研修を充実させることで、道徳教育の要としての道徳の授業を改善させることができます。ここでは、道徳の研修を実施するにあたって大切にすべきことや、道徳の授業研究を実施する上で重要な視点を示しています。これらを参考にし、各学校における道徳の研修の充実を図ってください。

2 授業づくりの前に

道徳教育は、学校教育全体を通じて、豊かな道徳性を養うために行います。そのため、道徳教育を基盤とした学級経営が行われる必要があります。教員自身が豊かな教養を身に付け、鋭い感性を磨くことで、子どもたちにも豊かな教養と鋭い感性を身に付けさせることができ、子どもたちの望ましい人間関係や教師との信頼関係がはぐくまれます。道徳教育は、学校教育における躰（身を美しくすること）ともいえます。

このことから、教員は日頃から、月や星、自然を感じさせる花などの自然物、絵画や音楽などの美的なもの、日本の伝統や文化などに目を向けておく必要があります。

それでは、次の質問に、あなたは答えることはできますか？

《昨日の月はどんな月？》

子どもに自然を愛する心や郷土を愛する心を抱かせるためには、まず、教員自身が自然や伝統文化に目を向ける心の余裕が必要です。

「昨日の月はどんな月？」

「あなたのまちの伝統文化は？」

このような質問に、あなたなら答えることができますか？

また、日頃から、子どもたちにこのような質問をしていますか？

3 道徳の授業づくりの基本

次の道徳の授業づくりにおける基本をチェックしてみましょう。

- (1) 教材解釈について
- (2) 話し合いを中核とした道徳の授業づくり
- (3) 導入・終末の工夫
- (4) 発問の工夫



(1) 教材解釈について

① 道徳の教材と国語・社会の教材の違い

道徳の教材

- ・道徳的価値について描かれているもの、考えさせるもの。
- ・一見分かっているようで分かっていないことに気付かせるための教材。(発達段階への見識が必要であり、学習指導要領解説-道徳編-に書かれている内容項目としての道徳的価値に対する見方・考え方を勉強しておく必要がある。)
- ・一番大切なこと(ねらいとする道徳的価値に対する見方・考え方)は書かれていないことが多い。(行間を読みとり、その部分を考えさせる。)
- ・基本的には簡単で短い。(長く難しければ、ねらいとする道徳的価値に対する話し合いの時間が確保できない。)

国語・社会の教材

(道徳の教材との違い)

- ・国語：およそ言語に関するすべてのことについて学ぶための教材(物語文・説明文・会話文・インタビュー形式の文が存在し、新出漢字や意味の分からない言葉の説明も求める。また、古文・漢文、俳句・短歌、和歌や狂言といった古典の教材や文法も扱う。)
- ・社会：史実や事実に基づいて、ある出来事や人物に対して精緻な情報を提供する教材(長いものや読解困難なものも存在する。)

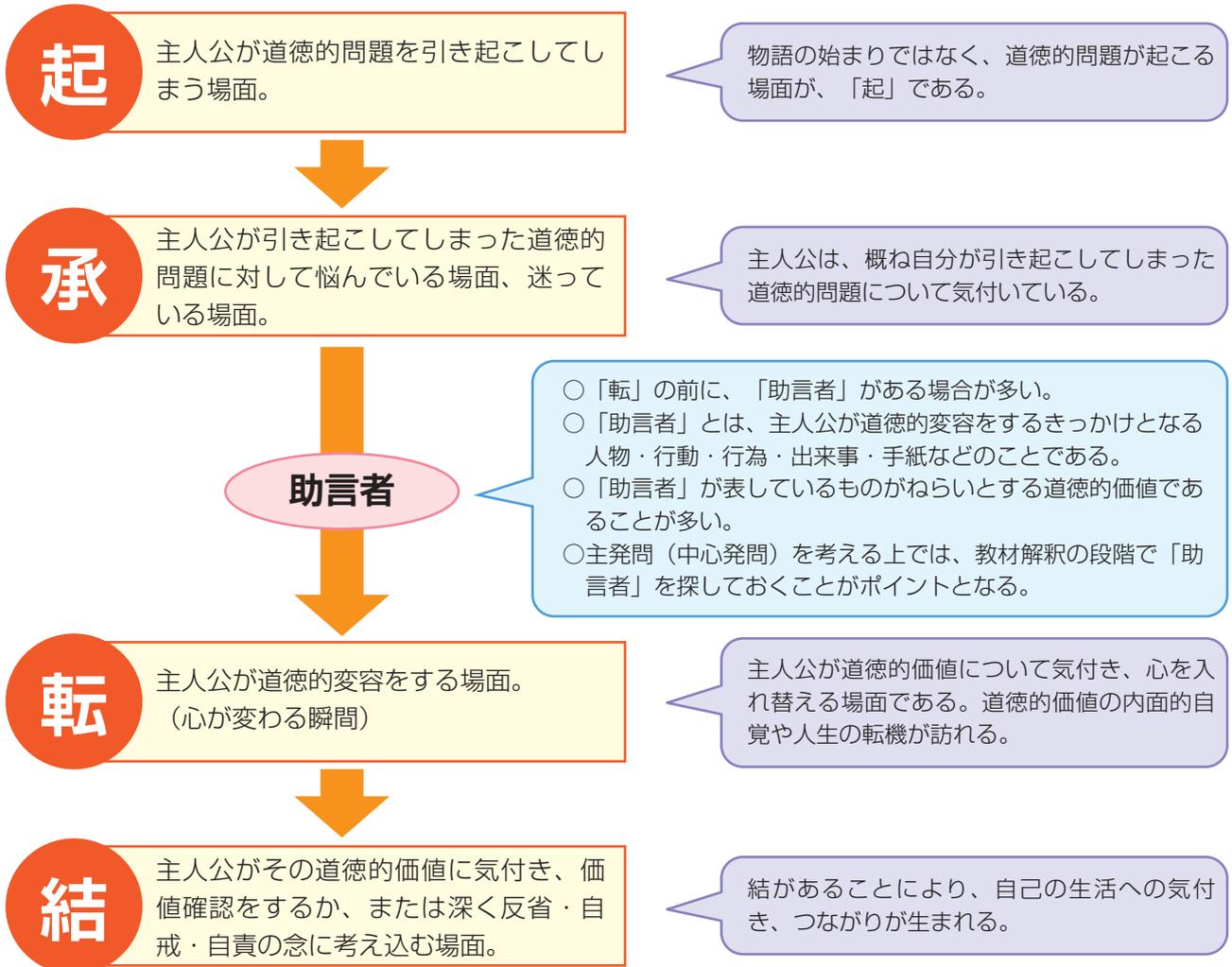
② 道徳における通読は範読が基本

- 物語に描かれている主人公のおかれている状況や心情について、子どもにイメージ豊かに読ませるためには、教員による範読が一番である。
- 子どもたちは必ずしも上手には音読できない。(読める子もいるが、読めない子もいる。読めない子は、「間違った読み」「小さな声の読み」「たどたどしい読み」をしてしまうこともあり、主人公の心の「機微」や「ひだ」が読み取れなくなってしまう可能性がある。)
- 読んでいる子は考えることができない。(自分の読む順番や読み間違えないか気になり、物語の世界に没頭できなくなってしまう。)

③ 主人公の心をたどるため、教材の起・承・転・結を捉える

例) : 「なしの実」「伝えたい願い－画家・彫刻家 保田龍門－」「銀色のシャープペンシル」「闇の中の炎」

道德の時間の教材は、基本的に、起・承・転・結からできています。起・承・転・結を捉え、主発問（中心発問）や授業展開を考えます。



このような教材が基本ですが、次のような教材もあります。

《「承」の部分がない教材》

例) : 「はじめての練習試合」「最後のおくり物」

道德的問題ばかりを繰り返す主人公が、ある日突然目にする光景に心が「はっ」とすることによって、心が大きく変容する。「承」が全くないためにインパクトがある。

《登場人物のすべてがよい人の教材》

例) : 「つなぎ合わせたメダル」「よりよいものを求めて－上山英一郎－」「後世の人々に託す－浜口梧陵－」

その物語のどこが魅力的で感動したのか、または貫き通せた原動力を問うことで、道德的価値に気付かせる。

(2) 話し合いを中核とした道徳授業づくり

新しい学習指導要領の告示がせまり、「特別の教科 道徳」（仮称）に対応できる道徳授業についても考えておく必要があります。そのため、指導方法については、特に、対話や討論などの言語活動を積極的に取り入れることや、課題解決的な道徳授業の構築が望まれているところです。各学校の研修においても、対話や討論などの言語活動の充実を図るため、以下の視点で検討することが大切です。

① 話し合いのルールづくり

話し合いのルールそのものは、子どもたちが創り上げることが基本です。与えられたルールよりも、自分たちで創り上げたルールの方が、守っていこうとする意識が高くなるためです。

《話し合いのルール》

- ・ 誰も自分の意見を言うことを邪魔されてはならない。
- ・ 自分の意見は必ず理由をつけて発言する。
- ・ 他の人の意見には、はっきり賛成か反対かの態度表明をする。その際、理由をはっきり言う。
- ・ 理由が納得できたらその意見は正しいと認める。
- ・ 意見を変えることができる。ただし、その理由を言わなければならない。
- ・ みんなが納得できる理由をもつ意見には、従わなければならない。

(渡邊満「教室の規範構造に根ざす道徳授業の構築」より)

② 話し合いを活性化するために

話し合いを活性化にするためには、さまざまな工夫が必要です。次に挙げる視点を意識することで、話し合いの活性化に努めましょう。

《話し合いの活性化》

- ・ ペア学習、グループ学習、一斉学習等の学習形態の工夫。
- ・ 男女ペア、コの字等の座席の工夫。
- ・ 「話す」から「語る」へ。
- ・ 「教師→子ども」から「子ども-子ども」という関係の構築。
- ・ 理由の理由を問う。根拠の根拠（論拠）を問う。
- ・ 発言した子どもへの問い返し発問と学級全体への切り返し発問。
- ・ 子どもの素朴な考えや疑問をすべて受容する姿勢。
- ・ 机間指導による子どもの考えの把握と意図的指名。

(3) 導入・終末の工夫

① 導入の工夫

道徳の時間の導入には、物語への導入と、価値への導入があり、どちらの場合も短時間で行います。ねらいとする道徳的価値についての話し合いに最も時間を確保するために、導入を省略することも可能です。

《物語への導入》

物語への興味・関心を引くような導入であり、端的に、短時間で行う。スムーズな導入が期待できる。



望ましい！

《価値への導入》

終末で、子どもの道徳的価値に対する見方・考え方が、きっと変わっているという自信がある時に行う。

価値の押し付けになってしまったり、子どもに本時のねらいがはっきりと伝わりすぎたりしないように、注意する必要がある。



工夫が必要

② 終末の工夫

道徳の時間の終末では、学んだ価値と自分たちの生活とのつながりを意識させることが重要です。必要以上に意識して価値の押しつけにならないよう、次のような、余韻のある終末を心がけましょう。

《余韻のある終末の例》

- ・物語の続きを考える。
- ・歌を歌う。
- ・1分間程度の余韻のある動画を視聴する。
- ・説話をする。

※教員が説話をするなら失敗談（自己開示）を、子どもに話をさせる場合には成功談を話させるようにする。

- ・振り返りを書かせる。

※「今日の授業の感想」ではなく、「今日の授業をとおして考えたこと、一番心に残ったことを書いてみよう。」のように問うことで、道徳的価値にせまらせやすくなる。

(4) 発問の工夫

道徳の授業における発問は、子どもが考えを広げたり、深めたりするために行います。ねらいとする道徳的価値に迫るよう、精緻に練った発問を心がけましょう。

- ・ 中心発問、補助発問、終末の発問を工夫する。
※中心発問では、「主人公はこの時どんな気持ちでしたか」というようなストレートな発問をするのではなく、子どもたちが考え込むような発問を用意する。副詞、副詞句に注目させることで、主人公の心の機微をとらえさせる。
- ・ 子どもからの多岐にわたる意見が予想できる発問を行う。
- ・ 繰り返し発問を常に用意しておく。
- ・ 気持ちを聞くのではなく「なぜ?」「どうして?」「何を?」を大切にした発問を行う。
- ・ 余韻の残る終末となる発問を行う。(決意表明などさせない。)

4 おわりに

道徳の研修においては、教材解釈や理論研究等はもちろん大切ですが、最も重要な研修は、授業研究です。授業実践の中からは、多くのことを学ぶことができます。

また、授業研究で最も学ぶことができるのは、授業者です。積極的に授業研究を行うとともに、設定された授業研究だけでなく、日常的に授業公開し、教員同士が授業を見合うことで、授業力が向上するとともに、子どもの学びの質も高まります。

平成27年度からは、新しい学習指導要領の移行期間がはじまります。対話や討論などの言語活動を積極的に取り入れ、課題解決的な授業を構築し、各学校での授業研究を進めてください。



平成26年度 道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業

研究協力校 実践事例集

～道徳読み物資料集「心のとびら」「希望へのかけはし」を活用して～

作成協力者

【監 修】 淀澤 勝治 兵庫教育大学大学院 准教授

【研究協力校】 岩出市立根来小学校

古座川町立高池小学校

海南市立第三中学校

御坊市立御坊中学校

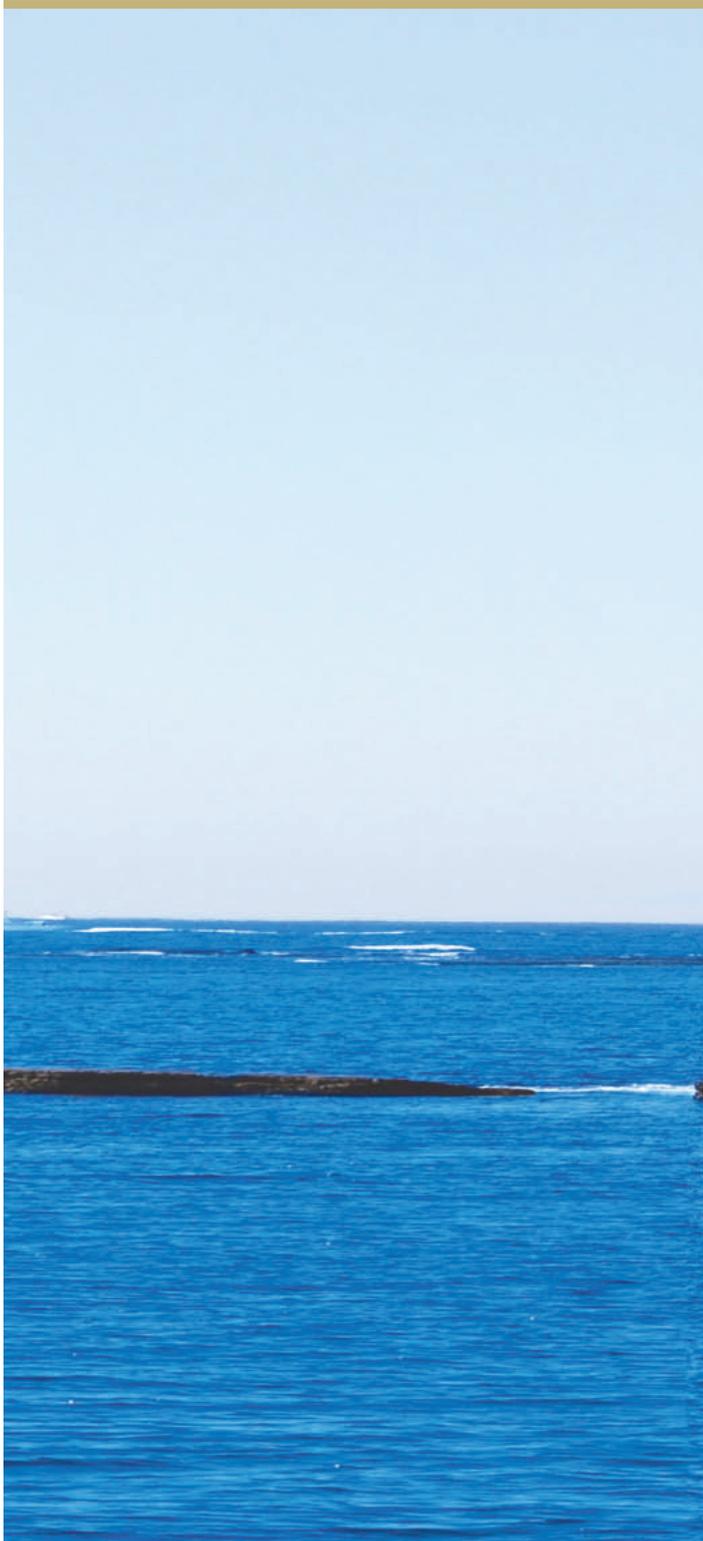
白浜町立富田中学校

平成26年度 道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業
研究協力校 実践事例集
～道徳読み物資料集「心のとびら」「希望へのかけはし」を活用して～

(平成27年3月)

和歌山県教育庁学校教育局学校指導課
〒640-8585 和歌山市小松原通一丁目1番地
TEL : 073-441-3662 FAX : 073-441-3652
<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500100/>

表紙写真／円月島（白浜町）



この冊子は再生紙を使用し、環境に優しい植物油インキで印刷しています。